

◆薬剤の血管外露出時の対応

●抗悪性腫瘍薬漏出時の対応

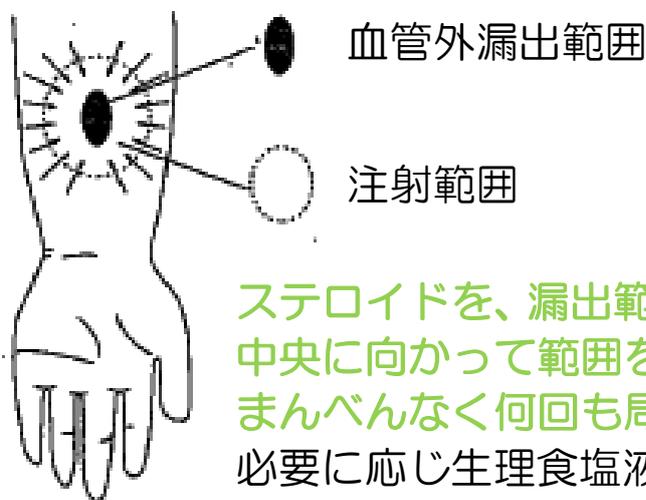
【 処置 】

- ①抗悪性腫瘍薬漏出を疑ったら直ちに注入を中止する。この際、抜針せず、漏出薬剤と量を確認し、シリンジを用いてそのラインからできる限り吸引する。
- ②浸潤している薬剤を回収するため、腫脹部位に 27G の針を刺しシリンジで吸引除去する。
- ③漏出した抗悪性腫瘍薬に対応するレスキュー薬剤があれば、最初のラインから投与を行いその後除去する。
- ④漏出部位は保冷もしくは保温する。（保冷が必要な場合 1 日 4 回氷冷する）
- ⑤皮膚科にコンサルトする。
- ⑥疼痛に対しては鎮静薬を用いる。
- ⑦頻繁に漏出部位をチェックする。遅発性の組織障害は漏出後 1 週間以上経過してから起こることもあり、完治するまでは十分なチェックが必要である。

使用する薬剤

- 副腎皮質ステロイド
- ヒアルロニダーゼ：ビンクリスチン、ビンブラスチンの漏出時
- チオ硫酸ナトリウム：シスプラチンに対する中和作用がある
- ジメチルスルフォキシド：フリーラジカル中和作用、薬剤の吸収促進作用がある

抗悪性腫瘍薬漏出時の処置



ステロイドを、漏出範囲よりも広く中央に向かって範囲を広げてまんべんなく何回も局所注射する。必要に応じ生理食塩液ガーゼで湿布を行う。

※アクリノール湿布は使用しない



アクリノール湿布は禁忌！

アクリノール湿布は接触性皮膚炎を起こすことが報告されているため、薬液の血管外漏出時などにおけるアクリノール湿布は実施しないこと

- 抗悪性腫瘍薬以外の組織侵入の強い薬剤の漏出時の処置
 - カテコラミン：イノバン・エピネフリン・ドブトレックス等
【対処】 必要であれば
レギチーン注、オムニカイン注、ステロイド注
 - アルカリ性の強い薬剤：アレビアチン、ラボナール、
ダントリウム
【対処】 抗悪性腫瘍薬血管外漏出時の処置に準じる
 - その他：塩酸バンコマイシン、レミナロン、フサン、造影剤
【対処】 抗悪性腫瘍薬血管外漏出時の対処方法に準じる